

眉をあげて



校長室便り 座間市立西中学校
第14(48)号 校長 牧野 淳志
令和4年12月19日発行

2学期を振り返って～その1～ 第56回 体育祭



去る、10月22日(土)西中学校第56回体育祭が開催されました。3年ぶりに全学年の保護者(1名のみでしたが…)の皆様に参加していただいたの開催でした。

コロナ対策で、まだまだ制約の多い体育祭でしたが、それでも応援合戦の復活(ダンス等の集団演技中心)や新種目「三人縄跳び」の導入など、様々な工夫をして体育祭に臨みました。

当日は、迫力ある入場&選手宣誓からはじまり、色ごとに競い合いながらも、互いを称え励まし合う姿も見られ、西中生の力とまとまりを見せつけてくれた素晴らしい体育祭でした。



選手宣誓

体育祭考 ～嬉しかったこと～



大成功だった体育祭。もちろん反省点や改善点もあるのですが、生徒たちは、自分の色の優勝だけでなく、全校としての体育祭の成功を目指してくれました。そんな中で、校長として嬉しかったことを思い出しながらいくつか書きたいと思います。

① 予行練習の反省が生かされた本番

予行練習で少々バタついてしまった入退場や係活動でしたが、本番ではきっちり修正。成功への意識の高さを感じられました。

② 整然とした開会式&全校体操

学校全体としての力はここに現れます。迫力のある入場&選手宣誓。集中した開会式。そして体育祭実行委員 且井君の指示の元でのしっかりした全校体操。参観に来られていた木島座間市教育長もとても感心していました。

③ 他チームへのエール

今年度、新しい形となった応援合戦。トップバッターは黄色組(3組)。緊張の演技が終了した後、黄色組応援団から続く青組(4組)へ「青組ファイトー!」の声。その輪(和)が次々と繋がっていきました。

④ 本気で一生懸命やったからこそその涙

閉会式や最後の色ミーティングで多くの生徒が涙を流していました。喜びや悔しさの涙もあったでしょうが、「全力でやりきった。」感動も含まれていたのではないのでしょうか。もし体育祭がその日だけのレクリエーションであったなら絶対に流れない涙だと思います。1学期から長い時間かけて準備して、練習して、苦勞しながらも精一杯やったからこそ流れた涙。とても尊いものでした。そして、多くの生徒から仲間、先輩、後輩そして先生方への感謝の言葉があったことがとても嬉しかったです。



西の縄。(大縄跳び)黄色組



ハリケーン 赤組



応援合戦 白組